

# 秋田県農業委員会女性協議会だより〈第5号〉

発行日 令和2年3月17日  
秋田県農業委員会女性協議会

## 1. 秋田県農業委員会女性協議会「第14回総会」「令和元年度研修会」を開催

令和元年6月21日 秋田市 ルポールみずほにて、会員35名出席のもと「秋田県農業委員会女性協議会第14回総会」を開催しました。「平成30年度事業報告及び収支決算の承認」「令和元年度事業計画及び収支予算の決定」をはじめ、4議案が上程され、全議案が原案どおり承認されました。

総会終了後には、「令和元年度第1回研修会」を開催し、「女性農業委員・推進委員が自ら意見や考えを前に出し、活躍するためのアイデアを考えよう」をテーマに、個々のアイデアを出し合い、グループのアイデアを取りまとめ、全体に向けて発表するというワークショップ形式の研修を行いました。



第1回研修会 出席者（全体）の様子



第1回研修会 アイデア取りまとめの様子

令和2年1月24日には、「令和元年度第2回研修会」を開催し、「地域の農業振興のためのアイデアを考えよう」をテーマに、再びワークショップ形式で研修を行いました。

研修では、自分のアイデアを積極的に話したり、立ち上がって前のめりになってグループのアイデアを取りまとめる姿等、主体的に取り組む様子が見られました。出席者からは、「皆さんの考えに触れ、意見を交わしながら自分の考えを深める事ができた。こういう研修会のかたちは非常に良かったと思う。」「2度の研修で行った話合いの経験を活かし、地域の話合い活動に積極的に取り組みたい。」等の感想がありました。



第2回研修会 アイデア取りまとめの様子

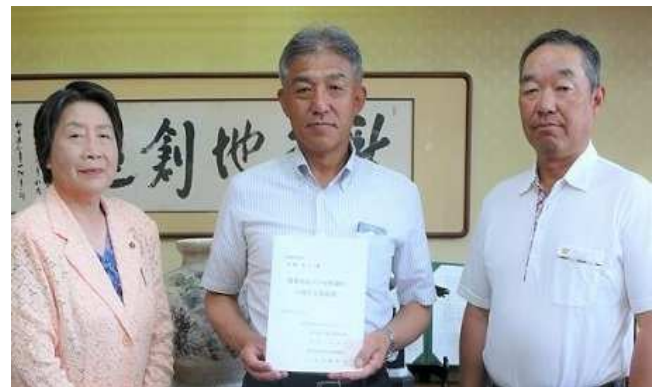


第2回研修会 発表の様子

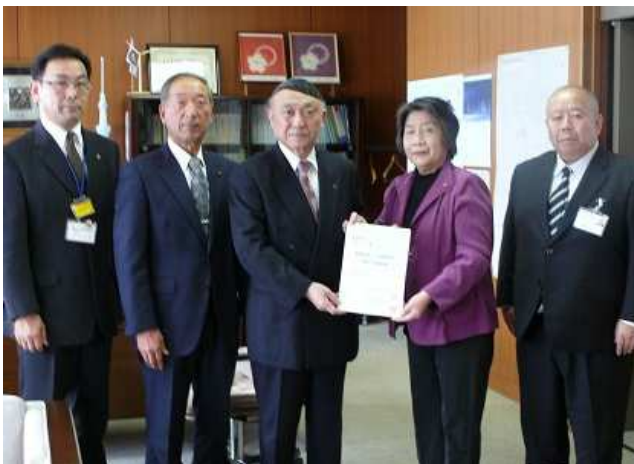
ワークショップ形式での話し合いは、「従来の行政と農業者という対峙関係の話合いでは、地域の合意形成につながらない。皆が意見を出し合い合意形成につなげるべき。」という考えのもと、茨城県東海村農業委員会が集落座談会で採用したもので、全国では「人・農地プラン」に関する地域の話し合いをこの形式で行う市町村が増えており、その中で農業委員・推進委員が、コーディネート役としての取り組んでいます。

## 2. 農業委員への女性登用に関する要請請動を実施

(一社)秋田県農業会議とともに、昨年10月に新体制後の任期2期目を迎えた大潟村、今年7月に任期2期目を迎える鹿角市、美郷町、大仙市、東成瀬村の市町村長に対して、農業委員への女性登用に関する要請活動を行いました。市町村長からは「女性登用の重要性や県内の状況を再認識した。農業委員会と情報を共有し、積極的に任命までの手続きを行っていきたい」等、前向きな言葉をいただきました。



大潟村 高橋村長へ要請（6月10日）



鹿角市 児玉市長へ要請（12月13日）



大仙市 老松市長へ要請（12月17日）

### 3. 令和元年度東北・北海道ブロック農業委員会女性委員研修会へ出席

令和元年8月22日 宮城県仙台市 パレスへいあんにて、「農業委員会の現場活動で女性委員の活躍推進」をテーマに研修会が開催され、本県からは20名が出席しました。

研修では、(有)かさい農産 取締役社長 葛西亮介氏より「社員一人ひとりが輝ける職場を目指して～女性活躍に向けた取り組み～」と題し、女性が働きやすい職場環境作りについて講演があったほか、ヴォイス&トーク 声と話し方コンサルタント 赤間祐子氏からは、「地域の話し合い活動を円滑に進めるために～伝える・伝わる声と話し方～」と題し、コミュニケーションの3要素『①ワード～言葉の表現力～ ②ヴォイス～声の表現力～ ③フェイス～身体の表現力～』をはじめとした、コミュニケーション力(声と話し方)の向上について講演がありました。



秋田県からの出席者の様子

### 4. 女性農業委員・女性農地利用最適化推進委員のペンリレー

私のつぶやき  
～ 執筆者 八峰町農業委員会 農業委員 森田 貞子 さん ～



夫は私より二年先輩です。右も左もわからず、ただ一生懸命仕事に汗を流す毎日でした。夫に聞きながら、一年、二年が過ぎ、色々な事を覚え、分からない事を学ぶ楽しさを知りました。

100aのネギ畑。七月半ば、収穫が始まる。足が痛い、腰が痛いと言いながら、朝三時に起き、夕方七時頃まで。大変ではあるが、夫とともに汗を流し、協力し合うことに生き甲斐を感じる。良いものを作り、収穫量を上げ収入が増えたときに達成感を分かち合える事がとても嬉しい。農家でやりがいを感じる瞬間でもある。

昨年から息子が新たに就農した。農業一年生である。色々な困難、挫折を味わう時があると思う。それを乗り越えた時、農業をやりがいのある仕事に思えたら最高だと思う。

年々、規模拡大し、親子で助け合い、協力しながら、「地域に根付く農業」を目指して頑張してほしい。私もまだまだ現役で頑張ります。

～ 執筆者 八峰町農業委員会 農業委員 齊藤 晴子 さん ～

私は八峰町の農業委員に任命されて早や2年が過ぎました。私自身どれほどの事が出来るのか不安でしたが、事務局、先輩の方々の指導を受けながら少しずつですが、多くの事を学ばせていただいております。

現在、農業を取り巻く問題は山積みしています。人口減少、高齢化が進む状況下で荒廃農地がますます増えるのを解消できるように活動していきたいです。わが家は4haの兼業農家で生計を立てています。将来的に考えれば専業農家で自立できるように農地集積をして国、県、行政の全面的な支援を受けながら、大規模な圃場整備を進め、コストを減らし、生産性を高め、海外との競合にも打ち勝てるよう農業経営を目指していければと思っています。農業は食に直結しています。女性の立場から笑顔と楽しい対話で、安全第一を心掛けながら生活していきたいと思います。また、全国農業新聞を購読していますが、激動の農政をわかりやすく解説し、農業経営の役立つ情報を伝え、農村現場や農家の思いを社会に発信しているので少しでも参考にしようと考えています。

今後も、私達、農業委員、農地利用最適化推進委員は地域の方々に耳を傾けながら、共に歩んでいきたいと思っています。



～ 執筆者 井川町農業委員会 農業委員 板垣 順子 さん ～



農業委員になって、もう八年になります。  
色々な問題を抱える難しい農業の先行きに、何も出来ないもどかしさを感じています。機械化が進み、作業が楽になった代わりに重い借金を背負う事となり、その借金や操作の難しさと離農する人も少なくありません。  
法人経営の人達も設備投資や人手不足で、明るい未来が見えているかは疑問です。それでも、私の周りには一生懸命農業を守り続けている人達がいま  
す。朝早くから夜遅くまで土を耕し、種をまき、気を抜く事なく手をかけ、自然と一緒に頑張っていきます。そういう人達のために畦道や農道や集  
会場で、声を聞くのが農業委員の役目だと思います。そしてその声を委員会で  
、声を出して伝えなければ委員になった意味は無いと思っています。

これからも少しでも、農家の声を届けるために頑張りたいと思います。

～ 執筆者 井川町農業委員会 農業委員 湊 たつ子 さん ～

我家は早くに家族協定を結び役割分担、労働時間、経営についても常に話し合いながら作業をしてきました。男女共同参画が叫ばれて久しい今日ですが家族協定についても、まだまだ浸透していない現実がありました。

ある研修会で「うちの父さん自分だば何してもいいし、私が同じ所さ居ねば何してだと言うんだよ。トイレさもゆっくり行けね。」体調を崩した事もあったという二人。昨年は農業簿記と青色申告の事を伝え、今回は役割分担をして労働時間も考え、休養日も設けるべきだよと家族協定の事を話しました。話し合う事は大切な事だけど、協定書として残し見える所に貼っておく事も勧めました。農業委員として、まだ地域の中に入っている会話の少ない自分がある事に気付かされた一日でした。

最近、地域産業の為に尽力してきた先輩の高齢化も進み、先の見えない人口減少が進んでいます。農業委員として地域を知る為に農地パトロールを行っています。地域の現状を共有する為に農地パトロールは、農家も巻き込んで行う事も必要ではないかと思えます。土地改良区・水利組合・農家等、地域全体で連携して関わっていく事が今は、一番大事な事のように思えます。地域農業を守る為に微力であるけれど、皆さんの意見を聞きながら自分なりに頑張ってみようと思う今頃です。



～ 執筆者 横手市農業委員会 農業委員 佐々木 由紀子 さん ～



一雨ごとに暖かくなり、春の訪れを実感する今日この頃です。  
私が、農業委員に任命されてから3年目を迎えようとしています。農業委員の活動は、秋田県の農業において重要で専門性が高く、また、非常に繊細であると日々の活動を通して、認識を新たにしました。  
最近の日本は予想を超える災禍に遭うことが続いております。農作物の被害、農地の損害のニュースを見ると、とても辛い思いになります。非農家の私ですが、その度に命と食の大切さ、農業の有難みを感じ重く受け止め省みるのです。

秋田県の人口減少率は顕著であり、農業人口も同時に減っています。農家の減少、高齢化に伴う離農により、遊休農地が増加するなど多くの問題を抱えています。地域の農地を守り継いできた世代が高齢化する中、農業委員会の使命である農地利用の最適化は喫緊の課題となっています。人と農地を繋げる取り組みを実行し、問題が解決に向かうよう活動することが求められています。

横手市では、園芸産業の拡大と、6次産業化を支援するための施設が整備されました。農業経営を目指す方々には朗報だと私は感じています。

農業は、厳しい自然と毎日共存しています。古代から現代に至っても、その都度、困難な局面を乗り越えてきた先人達の知恵と志を継承し、朗らかな農業、豊かな農業へと進めるよう農業委員として活動して行きたいと思えます。

転石苔を生ぜず。 The end crowns the work.

編集・発行：秋田県農業委員会女性協議会（事務局：一般社団法人秋田県農業会議）

秋田市山王4丁目1-2 秋田地方総合庁舎内 TEL:018-823-2785 FAX:018-823-7361